

倉敷駅周辺地区

(岡山県倉敷市) 第1回まち交大賞 アイデア賞

計画期間 平成17年～21年
 面積 483ha
 交付対象事業費 3,451百万円
 市人口 475,225人(地区内人口 23,307人)

ポイント 「住」、「観」、「協」をキーワードに、観光資源の再構築、中心市街地活性化及び協働のまちづくりの3本柱で「まち」の魅力度の向上を図るといったシナリオが一貫しており、高い相乗効果が期待される。

地区概要 コミュニティバス、多目的トイレの整備など人にやさしい施設整備による中心市街地活性化、美観地区夜間景観照明、電線地中化など観光資産の再構築による魅力向上、及びまちづくりセンターの整備、倉敷朝市などにより市民・行政が役割分担した協働のまちづくりを目指す。

目標 中心市街地活性化、観光資産の再構築及び協働のまちづくりを目指す。

指標 人にやさしい施設整備による来街者数、観光資産の再構築による観光客数、協働のまちづくりによる市民活動数を指標として掲げた。

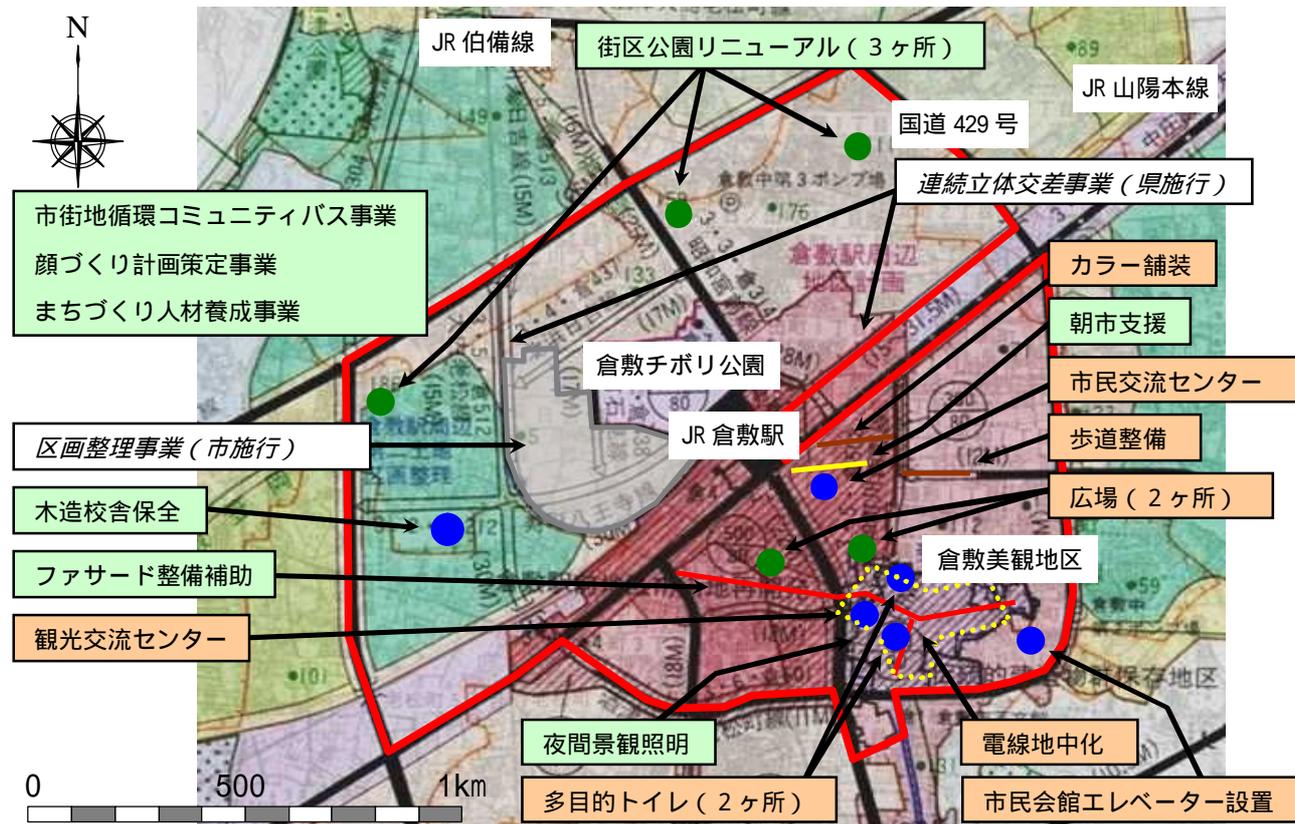
来街者数	78,303人 (H16)	80,000人 (H21)
観光客数	3,070千人 (H16)	3,220千人 (H21)
市民活動数	1,037人 (H16)	3,000人 (H21)

事業内容 基幹事業(2,786百万円)

道路(歩道 2.5m×2、延長 260m) 広場(2ヶ所 1,000㎡) 高質空間形成施設(カラー舗装 延長 2,118m、電線地中化 延長 1,070m、多目的トイレ設置 2ヶ所) 既存建造物活用(地域交流センター 1カ所、延床 640㎡)

提案事業(665百万円)

ファサード整備補助(35軒) 木造校舎保全(2棟) 朝市支援(100店) 夜間景観照明(5エリア) コミュニティバス(5台) 人材養成事業(1式)



地区の現況と課題

倉敷駅周辺地区は、全国的に知名度の高い倉敷美観地区を有しているが、伝統的な建造物と調和した都市空間は確保されていない。また密集市街地を多く抱え、高齢化、空洞化により宅地更新もままならず、人口は減少し、空家、空店舗、低未利用地が増加しているため活力低下が著しい。これらを要因とする危機感により協働のまちづくりへの機運が盛り上がりつつあるが、実践にまでは至っていない。このため、観光資産の再構築、市街地の活性化、協働のまちづくりが求められている。



電柱、電線類が輻輳する倉敷美観地区

提案事業の特徴

美観地区夜間景観照明事業

夜の寂しい倉敷美観地区を滞在型の観光地として定着させるため、行灯の屋内設置と軒下配線など、地元住民の協力を得ながら、夜間景観照明による観光資産の再構築により、白壁の街並の魅力をさらに高める。

くらしき朝市三斎市の開催

三斎市は、江戸末期に倉敷川畔で開かれていた定期市で、これを再現することにより、毎回3万人を超える買い物客でにぎわい、閑散とした商店街は見違えるほど活性化し、その盛況さはTV、新聞等でも紹介され、地区外のスーパーでも「朝市」が開催されるようになり、波及効果も著しい。

まちづくり人材養成事業

協働のまちづくりを実現するために、フォーラム、シンポジウム、カリキュラムの開催によるコーディネーターの養成、介護ヘルパーの養成、起業家の育成を支援する。



美観地区夜間景観照明事業

計画策定プロセス

検討会の開催

行政内部には、組織を横断的に調整する組織がなかったため、既存の有志の集まり（まちづくり検討会 15名）をベースに約半年間をかけて、地元、商店街、TMOなどと調整した。

関係権利者等への説明会

夜間景観照明事業において、地区内住民に対しては、格子窓からの生活感ある窓明かりを演出するために、各戸に行灯設置をお願いした。演出や効果の説明に苦慮し、合意取得のために地道に訪問・説明を重ねた（82戸）。

継続的なまちづくり活動

くらしきTMOは、平成15年10月に立上ったまちづくり組織である。この活動拠点をまちづくりセンターに移してもらい、朝市をはじめとする屏風祭りや花七夕などのイベントを継続的に開催し、また計画期間中は、事業の評価や改善についてのモニタリングなどの実施により協働のまちづくりを実践していく。

まちづくりフォーラムの開催の様子



くらしき朝市三斎市開催風景



倉敷市長古市健三氏のコメント

このたびの御選定、誠にありがとうございます。

『まち交大賞』応募に当たりましては、『美観地区夜間景観照明事業』をアピールさせていただきました。

当事業は、夜の寂しい倉敷美観地区を、滞在型の観光地として定着させることを目標に、白壁の街並みを景観照明するものです。民家の薄明かりも演出のひとつとしているため、住民の方々の御理解・御協力は不可欠でございました。

本市としましては、このたびの受賞を契機に、まちづくりに取り組む重責を改めて認識した次第でございます。どうか今後とも市民の皆様のご協力をお願い申し上げ、お礼のことばとさせていただきます。